嘉穂高等女学校校歌

作詩　旧第五高等学校教授　八波則吉先生
作曲　元本校教諭　山下鎌次郎先生

一、琴平山に草萌えて
松の木陰に風薫り
竜王山に月冴えて
水遠白し穂波川

二、自然の母のふところに
かき抱かるる心地して
光あまねき大御代に
学びの道をたどるかな

三、操の鏡身に秘めて
なほも優しくしとやかに
おみなの徳を修めつつ
御代の恵に報いなむ

〔温和に，但，威厳を保って〕

福岡県立嘉穂東高等学校校歌

作詞　本校文芸部選
作曲　元本校教諭　山下鎌次郎先生

一、朝日に映ゆる龍王の
雄々しき姿仰ぎつゝ
世代に生くる若人の
希望の集ひこゝにあり

二、ゆたけき穂波寄る所
叡智の光輝きて
自治の緑いや深き
我が学舎に誇りあり

三、霧たちこむる嘉麻川の
久遠の流れはるけくも
たゞ向上の一筋に
真理の道を究めなむ

吾が逍遙歌

作詞・作曲　第三代生徒会長
山井静男

一、桜の下に春死なん
古人の恨み懐きつつ
若き生命の美酒に
酔わんとすれど術もなし

二、青葉にそよぐ乙女子の
鬢のほつれをかきあげし
夢の手姿かそけくも
飛鳥の古仏に似たるかな

三、中空高く煌めける
星の永きに比ぶれば
英雄の夢重ぬるも
人の限りを哀しめり

四、又流れたり星一つ
漆黒の闇に消えぬれば
厳しき御言さながらに
宇宙の象徴に愕きぬ

五、月影青く地を照らし
夜寒の雁空を行き
帰らぬ人を思草びつゝ
微吟消えゆく穂波川

六、徹宵真理の苦しみに
血涙しぼりて明かすとも
聞かずや遙かわだつみの
憂悶永久に血を吐くを

解　説

一、「願わくは花のもとにて
その如月の望月の頃」の
夢を追いつつ若さにまか
重ぬるも酔うほどに気が

二、新緑かおるそよ風に鬢の
かきあげる少女よ。可愛
りりしいその姿は、かす
飛鳥の仏様に似てること

三、大空に煌々と輝く星たち
ながれ（動き・運行）に
英雄たち（人間）の栄枯
はかないものだ。

四、流星一つまた一つ漆黒の
る様は、厳かな万物の営
宇宙の決まり全ての物を
大きさに驚いてしまう。

五、月の光が明るく地上を照
寒々とした夜空を雁が群
行く。
帰らぬ人（友）を心ひそ
ながら、詩を吟ずるも穂
流れと共に消えて行く。

六、夜を徹して語り合う真理
涙して明かしたこの情熱
聞いてくれるか、はるか
（母なる海）よ。
永遠に続くのか此の青春

「青春とは人生の或る期間
ではなく、心の様相を言う
米国詩人　サミエル・

この歌は古歌・乙女・日本
飛鳥・宇宙・青春の苦悶等
たロマン溢れるそして青春
ひびかせる「生涯の青春歌
平成八年

春死なむ
西行さんの
せて盃を
晴れない。

ほつれを
いくも
かながら
よ。

の永遠の
比ぶれば
盛衰は

闇に消え
みの様に
包み込む

らし、
をなして

かに思い
波川の

の追究に
。

な海の神

の苦悶。

を言うの
のだ」
ウルマン

の心の故里
を謳い上げ
の日を心に
」である。
八尋冨士夫